順位	氏名（議席）	発言の要旨
4	関 明美（２）	<p>1. 東海地方随一のぜんそく支援体制の確立と子育て環境の充実に向けて かつて富士市は公害健康被害補償法に基づく第一種地域に指定されるほど、大気汚染や水質汚濁に苦しんだ。現在では環境が大きく改善され、公害を乗り越えた地域としての経験を生かし、ぜんそく児向け水泳教室などの予防事業に取り組んでいる。</p> <p>これらの事業は、環境省所管の独立行政法人環境再生保全機構（E R C A）による公害健康被害予防事業の一環で、経費の大部分が補助対象となっている。E R C Aは平成16年設立の政策実施機関で、補償から予防へと方針転換し、地域の健康維持を支援している。</p> <p>富士市では現在、E R C Aの健康相談事業と機能訓練事業（水泳教室）の2事業のみを実施しているが、E R C Aが助成対象とする事業はほかにも多岐にわたり、制度を十分に活用できているとは言えない。</p> <p>今後は、子供向けの健康相談や健康診査、呼吸リハビリなどの機能訓練、医療機器整備や病院周辺の植樹事業など、未実施の助成制度を積極的に活用することで、ぜんそくやアレルギーに悩む子育て世帯が安心して暮らせる環境づくりが可能であり、東海地方随一のぜんそく支援体制が確立できるものと考え、その整備を求め、以下質問する。</p> <p>(1) 成人向け講演会に加え、子供向けの健康相談事業を導入してはいいかがか。</p> <p>(2) 幼児健診に合わせて、ぜんそく等の発症予防を目的とした健康診査事業を導入してはいいかがか。</p> <p>(3) 水泳教室以外に、呼吸リハビリや音楽療法など多様な機能訓練事業の導入や拡充をしてはいいかがか。</p> <p>(4) 富士市立中央病院の医療機器整備計画は、呼吸器疾患対応の医療機器整備に関する助成制度を活用したものとなっているか。</p> <p>(5) 病院の建て替えに当たり、周辺の環境改善を目的とした植樹事業の助成制度を活用してはいいかがか。</p>